

採択拠点の拠点形成概要・採択理由

【分野名：革新的な学術分野】

機 関 名	大阪市立大学
拠点のプログラム名称	疲労克服研究教育拠点の形成
中核となる専攻等名	医学研究科基礎医科学専攻
事業推進担当者	(リーダー) 渡邊恭良 教授 外15名
<p>(拠点形成概要)</p> <p>都市生活に立脚した現代ストレス社会は疲労に満ちている。疲労は様々な病気の前兆かつ万病の元(未病概念)であり、予知医療の中核として極めて注目される。また、疲労克服については、その経済的価値も高い。本格的な「疲労の科学」は本拠点リーダーが班長を勤める文部科学省科学技術振興調整費：「疲労および疲労感の分子・神経メカニズムとその防御に関する研究」(平成 11-16 年度)が世界初であり、医学・医療のベースとなる革新的学術分野と位置づけられる。大阪市立大学はこの疲労研究班の中核として、疲労の分子神経機構の解明、疲労度の客観的評価法の確立を行い、疲労国際会議を主催するなど世界の疲労研究をリードしてきた。本研究教育拠点は、大都市・大阪を母体とした本学を「疲労の科学」の拠点とすべく、国際疲労研究センター、疲労クリニック、抗疲労食薬開発センターを設立し、国内外の俊英を集めて研究教育を行い、世界最高水準の国際的な基地として「疲労克服研究教育拠点」の形成を目指す。</p>	
<p>(採択理由)</p> <p><コメント></p> <p>現代社会の大きな問題である「疲労」の分子神経メカニズムの解明、疲労度の客観的評価法の確立、抗疲労食薬の開発を目指すものである。「疲労」を正面からとり上げて研究教育拠点を形成することは革新的であり、また、疲労克服は疾病予防上も重要である。さらに、本拠点形成計画の目的が達成されれば経済的価値も大きい。</p>	
<p><革新的な学術分野であるポイント></p> <p>「疲労」という現象を医学・生命科学の対象として捉え、疲労の分子神経機構解明、疲労度の客観的評価を通して、その分子神経メカニズムを解明し、予防や治療などの制御技術の開発を目指している点で、革新的な学術分野の開拓が期待できる拠点形成計画である。</p>	